

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2690300054		
法人名	仁恵会		
事業所名	グループホーム新町御池 月		
所在地	京都市中京区新町通り姉小路下町頭町92		
自己評価作成日	平成28年6月15日	評価結果市町村受理日	平成28年10月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JiyosovoCd=2690300054-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JiyosovoCd=2690300054-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年7月19日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

市内にあり、施設の周りにはお店が多くあり、活気があります。また京都ならではの施設(御所や二条城など)もあり、季節の良い時は外出する機会も多くあります。また家族も面会しやすい環境である為、色々な方が面会にこられる為、なじみの関係が継続しやすくなっています。施設内では利用者のIADLに合わせて日常の生活リハビリ活動に取り組んでいます。また各種体操(ポール・足上げすこやか)を日中に実施、体力の維持・増強を図っています。デイサービスなどとの交流もあり、活気のある生活を送っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念のなかに「地域ケアに努める」とあり、下掲示板に張り出し、職員が周知できるようにしている。理念・経営方針については、リーダー会議やユニット会議でどのようにすれば実現できるかを話あっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として、職員と一緒に地域の行事に参加するようにしている。また近隣の商店街に利用者と一緒買い物に行くようにして、日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方が相談に来られる事がある。その時は認知症介護に対するアドバイスをを行っている。気軽に立ち寄れるように玄関前にポスターを掲げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内外での具体的な事例をあげて、いろいろな方面からのアドバイスを頂き、それを介護に生かすようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば、相談するようにしている。また区役所主催の地域ケア会議などにも参加するようにして協力関係を築いている。運営推進会議の議事録は必ず報告している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が身体拘束になるのかを、具体例をあげ、正しく理解できるように研修などを行っている。安全のために、玄関は家族の了解の元、施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修などがあれば、積極的に参加している。また見てみぬふりがないように、施設内の風とおしをよくする、職員同士が意見を言う機会や場所をつくるようにし、防止に努めている。		

グループホーム新町御池(月)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用されている方もある為、具体例を挙げながら、学ぶ機会を得るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	何度も説明をする、わかり易い言葉を使い説明するなどしながら、理解が出来ているか確認しながら契約している。複数の家族に来てもらい説明を受けてもらうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	プラン会議などを行い、ゆっくり落ち着いて話せる環境を作っている。また役所の電話番号などを伝え、気楽に相談ができるように伝えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やリーダー会議の中で意見を聞いたり、個別面談を行い、意見などを聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の不利にならないように、常に注意している。やりがいをもてるように、役割を持って仕事ができる環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時期や経験年数により合った研修をうけ、知識を増やしていく機会を作っている。資格もとれるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	懇親会や勉強会などに積極的に参加し、他施設の職員と意見交換の場を提供するようにしている。		

グループホーム新町御池(月)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何度か面接を行うようにし、信頼関係ができるようにしている。また入所時はゆっくり話を聞く機会を持つようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安に思われている事を介護員だけでなく、主任やケアマネージャなど色々な立場の人間が、話を聞くようにしている。また職員は担当制を実施し、気軽に声が掛けられるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅での生活を担当ケアマネージャーや在宅スタッフに聞き取り、必要な支援を導入できているか検討した上で、入所を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事は自分でしてもらい、自立した生活を送る環境を作るようにしている。希望・要望などもしっかり聞き取り、意見として取り入れるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報を共有する事で、共に支える気持ちを持つようにしている。一緒に外出するなどして、入所中の様子を知ってもらうようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知人がきやす環境を作る事で、今までの人間関係が継続できるようにしている。また懐かしい場所にドライブに行く事もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂での配置や話題の提供により、孤立をふせぐようにしている。		

グループホーム新町御池(月)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設や入院中の職員に様子を聞き、困られている様子がないように援助している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日中のご様子を観察し、行動やしぐさ・言葉などの細かな変化を職員全員で共有できるように記録し、利用者個人の思いをくみ取れるように努力している。IADLへの取り組みで、洗濯や掃除などに参加してもらっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「個人記録」や「フェイスシート」の情報に基づく、その方々のヒストリを理解するように努め、利用者一人一人の個性や思いなどを把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気付いた事は記録や申し送りを行い、現状把握に努めている。情報共有の為、記録方法や用紙に対する改善をこまめに実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月次のユニット会議において、各個人個人へのケアプランを3か月毎に見直している。また、緊急性のあるADLの変化にも個人記録に基づきユニット内で情報を共有している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「個人記録」にその時々のご様子を記録し、情報として介護員全員に周知するように努めている。また、それらの情報を元に利用者同士或いは、利用者とのコミュニケーションに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズや問題を拾いあげ、ユニット間で退所できない場合はケアマネに相談し、部外からの支援も取り入れている。家族との交流は自由に柔軟に対応している。		

グループホーム新町御池(月)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の情報を民生委員さんや近隣の方の話を聞き、利用者にとって必要な資源であれば、積極的に活用するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医への連絡をとりながら、他の病院や医師の受診を希望された場合、積極的に情報を提供して、受診がうけられるようにしている。必要に応じて、近隣の医療機関への受診にも出向いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に情報提供を蜜に行い、適切なアドバイスを受けられるように、日々コミュニケーションをとるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や相談員、婦長などと連絡をとり、施設での状況報告を行う。入院中は家族との連絡や面会などを行い、現在の状況と今後について相談する機会を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より、終末期についてお話をしている。またケアプラン作成時や入院時など機会を見て、説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを掲示し、日々目につくようにしている。また救急講習をうけ、実践にも役立つように復習するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上の消防訓練を行い、全ての職員が訓練に参加できるようにしている。また他の災害についてもシュミレーションを行い、訓練するようにしている。安全衛生委員会を設け、情報共有と社員教育に注力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時における研修において基本的な「接遇に関するマナー」と「人権学習」を課題として取り入れている。また、個人情報の保護についても、職員の研修科目に取り入れている。大きな声でトイレの声かけをしない、各居室をプライベート空間として認識するように周知させている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションのなかで、個人の様子をつぶさに観察し、言葉や表情による希望の表出を逃さないように努力している。また、それらの情報を共有し、自己決定の援助に役立てている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「個人記録」や「フェイスシート」の情報に基づき、個々のヒストリを理解するように努め、利用者一人一人の個性や思いなどを把握するとともに、現状に則したレクリエーションを提案するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感に応じた身だしなみと、個人の気持ちを反映したお洒落を、コミュニケーションを通じて提案し、実践している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の嚥下状態や咀嚼能力に応じた食事形態の提供を実践するとともに、「好き嫌い」などの個人的な嗜好も反映した食事を提供するように心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的な食事については、業者(栄養士監修)からの献立提案に沿って実施している。また、水分摂取については個別管理を実施し、水分量の把握と不足時の補水方法をゼリーにするなどで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。特に部分義歯の方には残歯への手入れを介助、または見守りにより実践して頂き、義歯の方に対しては、每晚「入れ歯洗浄剤」を使用している。		

グループホーム新町御池(月)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「排泄チェック表」にて排泄タイミングを個別に把握するように努めている。また、個別の排泄パターンを把握することで、無理のない範囲で自発的な排泄支援を心掛けている。排泄用具を適切に使う事で、失敗によって自尊心が傷つかないことへも配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄に有用な体操を実践したり、水分の摂取を促すことや、栄養面での支援などを行っている。また、緩下剤を利用する方については体への負担が掛からない様に配慮し、分量の調整を医師と相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個浴であることを活かし、できるだけ家庭と同じように個々のペースで入浴できるように、脱衣⇒入浴⇒更衣の全てを一人の介助者で実践している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	枕や寝具の一部を個人所有の物を持ち込んで頂くなど、個別の要求を極力取り入れ「安息」を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「個人別薬情報」を元に、各個人に対する服薬の状態を職員が把握するようにしている。また、主治医には定期的に日中の様子を伝え、適正な処方を得られるよう情報提供に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家庭的な雰囲気少しでも味わって頂くために、料理や掃除・洗濯といった家事を通じての役割を持つ楽しみと支援や、個人の趣味・趣向などを考慮した個別レクリエーションを提供するように心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や日光浴を目的とした散歩だけではなく、外出時に「喫茶」を楽しむなどの気分転換や、生活に潤いを持って頂ける様に心掛けている。		

グループホーム新町御池(月)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者ではあるが、小額のお金を保有している。職員と一緒に買い物に出かけることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話についてはユニット内に設置している直通電話を使用し、希望に応じて職員が介助しながら電話を掛けることが出来るようにしている。手紙も希望に応じて受発信ができるように対応している。また、年賀状の発信も支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングフロアでは、季節感のある装飾やレクリエーションを行った際の写真などを飾るようにしたり、テレビや音楽などをそれぞれが自由に楽しめるように個人のADLや状況に合わせて座席の配置などを配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングフロアでも、ソファを一定の距離をとって配置するなど、個人の気分に合わせて一人の空間が保てるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り、自宅で使用していた家具や調度品等を持ち込んで頂くことにより、思い思いの環境を作って頂ける様に取り組んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を工夫したり、歩行や移動については手摺りを持ちやすい空間にしておく場合と、歩行できる距離を考慮してあえて途中に椅子を配置するなどして、居室と移動距離の関係を配慮している。		